



文化庁 日本語教育大会 2017年8月26—27日

## 第2分科会

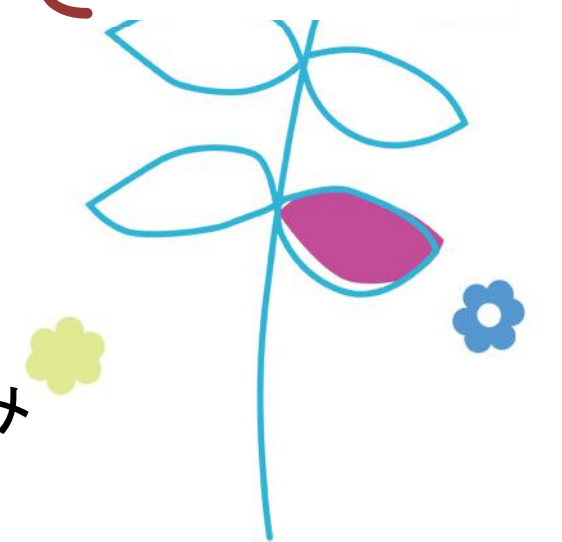
# 子どもに日本語を教える人の専門性



～就学前から青年期にわたる対象別の  
日本語学習支援を通して～



東京学芸大学 齋藤ひろみ





# 本分科会の目的

★日本語教育人材の資質・能力に関する議論

地域の子どものための日本語学習支援

を担う人材の場合は？

「日本語を教える」知識・スキルの他に何が重要か？

学び手のニーズ・レディネスの把握

日本語についての知識・技能

日本語を教えるための知識・技能

(コースの設計・授業の実施・評価)

○成人対象の日本語学習の支援者と比べて

○組織的な教育機関での日本語教育担当者と比べて



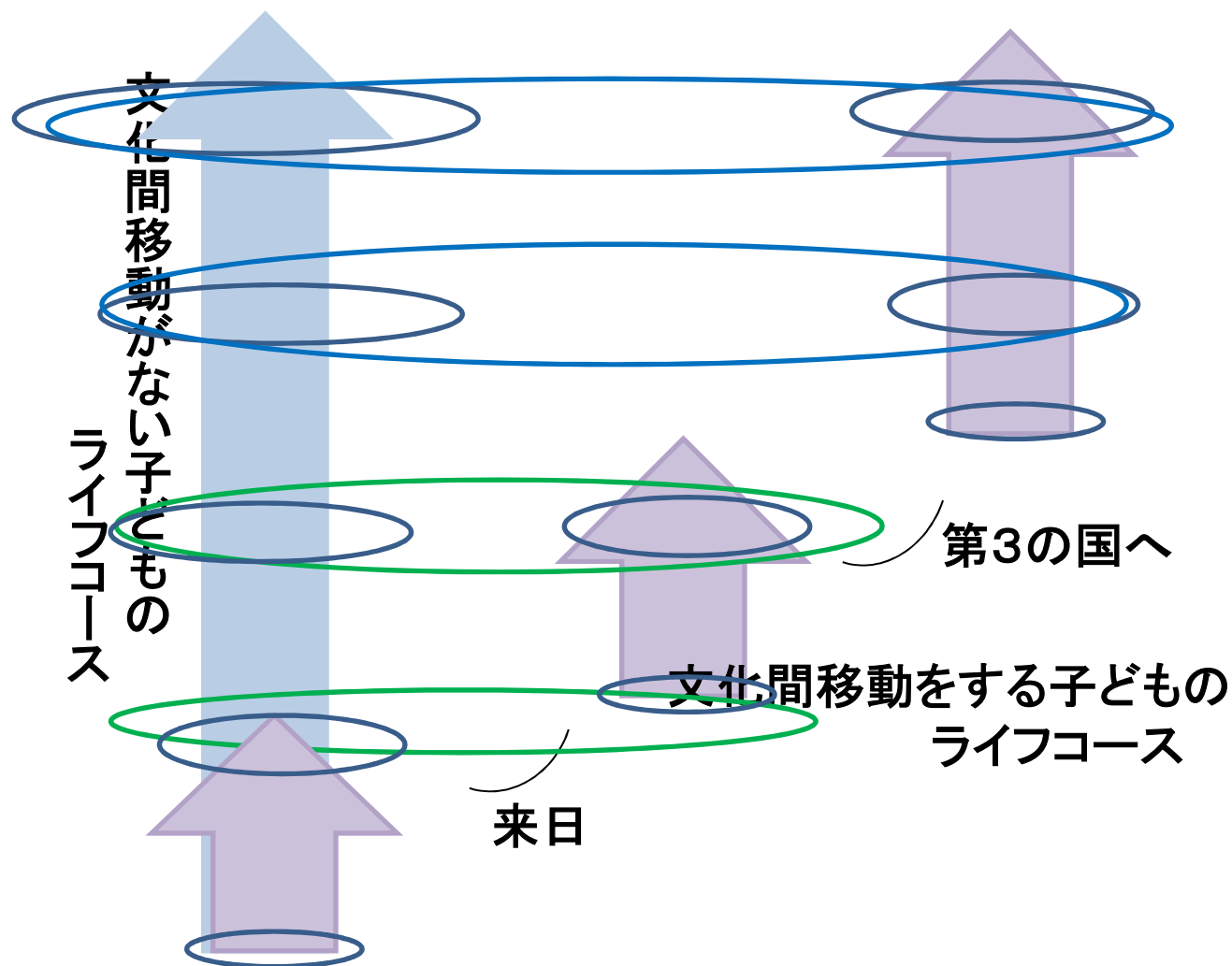
# 子ども対象の学習支援

(成長発達中の人の学習環境づくり)

- ⇔ 成人対象
    - 体の発達
      - … 考慮すべき点
      - … 心と体のバランス
    - 心的発達
      - … 多元的アイデンティティ
      - 認知発達
    - 言語の獲得
      - … 複数言語環境・複数言語の力
    - 文化の形成
      - … 多元的な文化
    - 社会との係わり
      - … ライフステージによる
      - 社会的役割
      - 社会参画
- ライフコース  
へのまなざし



# ライフコースへのまなざし ～学びの連続性を保障する教育・支援を デザインする力～



移動による環境の変化は、子どもたちの学びの連続性を断ち切ってしまう可能性



子どもたちが経験的(学習を含む)に築いてきた**知のネットワークを活性化し、それをことばに結び、新たな学習活動への参加を促す教育・支援をデザインする力が重要。**



# 地域の支援

(ウェルフェアのための学習支援)

- ⇔ 学校の教育

どこで ≠ 組織化された公教育の場

誰に ≠ 日本語学習の意思・目的が

明確な学習者

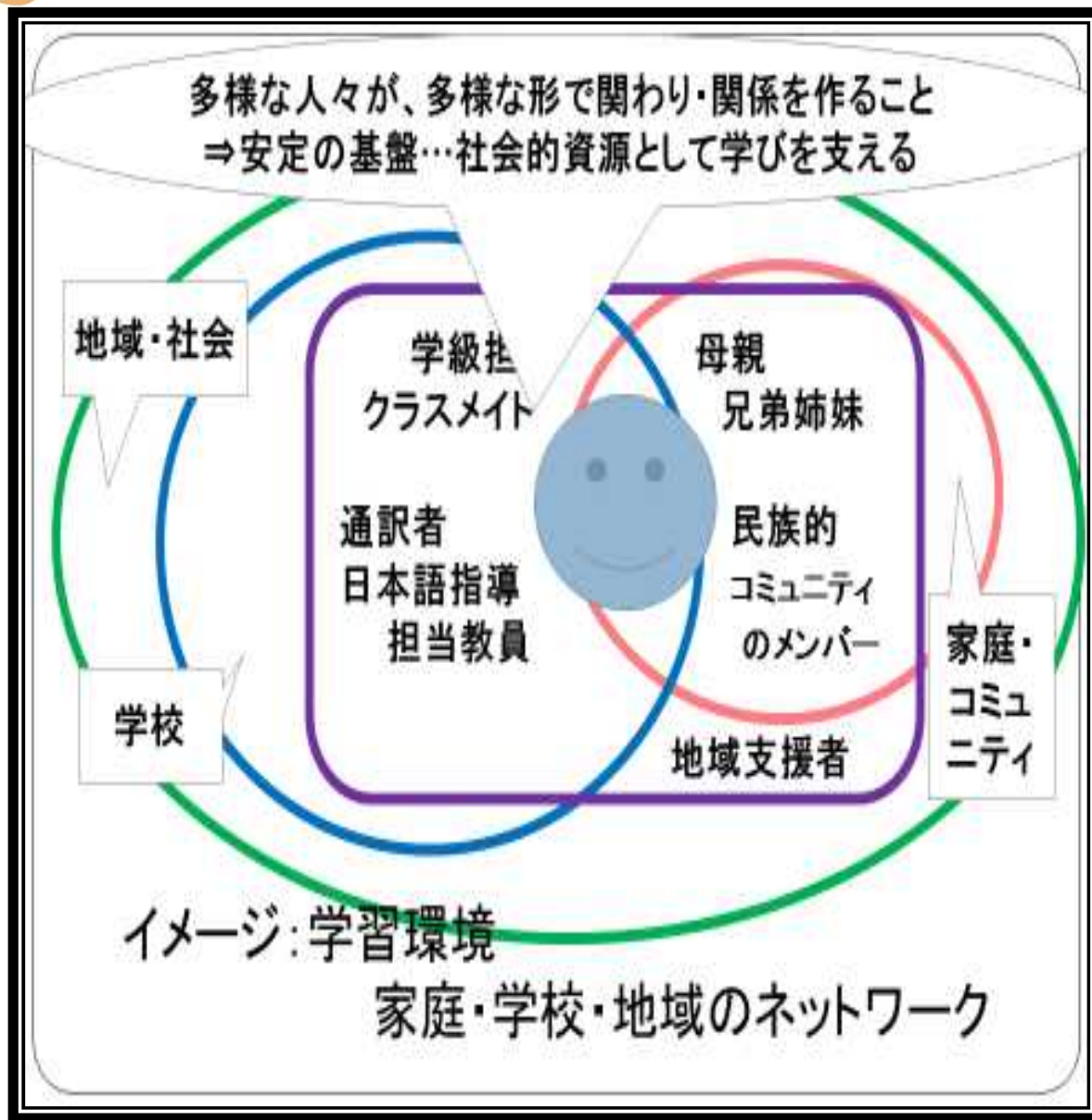
誰が ≠ 専門性を共通にする教育者

なんのために ≠ 一定程度特定化された

目的・ゴール

参加型...多様性・可変性・相互作用性

# ことばの学びを育む環境をつくる ～地域と学校を結ぶ力～



子どもたちが

・移動先の社会の文化 や  
社会構造について知るた  
めに

・自身の存在する意味と人  
生の目的を探るために

社会との関係をつくり(自  
分の社会的役割の確認)、  
探究する過程を伴走し支  
援する環境を創る力

…教育コミュニティをデザ  
インする力



# 資質能力を知識・技能・態度として捉えると（例）

| 知識                                                                                                                                                                                                                                                                           | 技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 態度                                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>A 対象者を把握するための知識<br/>...来日の経緯に関わる歴史的社会的状況<br/>...子どもの成長・発達、文化間移動による影響、文化適応<br/>...ことばの力と社会参加・キャリア形成</p> <p>B 子どもたちが使う日本語に関する知識<br/>...子ども同士の会話で<br/>...学校の学習活動で</p> <p>C 子どもへの日本語教育に関する知識<br/>...子どもの言語能力や言語獲得の特性<br/>...子どもの学習活動の設計<br/>（暮らしとことば／学習とことば／アイデンティティとことば）</p> | <p>A 子どもの状況を把握し、対等な態度で適切に応じるスキル<br/>...子どもや保護者・関係者から状況を聞き取り、不安を取り除く<br/>...日本語力や経験・既有知識等を把握する</p> <p>B 子どもの実態に応じて、支援・教育内容・方法・評価の仕方を決定するスキル<br/>...年齢や日本語の獲得状況に応じて<br/>...社会生活上のニーズに応じて<br/>...教科等の学習状況に応じて</p> <p>C 子どもの行動範囲を把握し、関係者間で連携・協働するスキル<br/>...学校等の教育機関と情報交換をし子どもの実態を共有する<br/>...生涯教育・社会福祉等の地域の関係者と連絡を取り話し合う<br/>...倫理面に配慮して情報を扱う</p> | <p>A 子どもたちのライフコースや複雑な学習環境を理解し、支援内容を決定しようとする</p> <p>B 関連機関、エスニックコミュニティの人々と協働し、豊かな学習環境を創ろうとする</p> <p>C 文化的・社会的権威性を意識し、自身のもつ準拠枠を問い直そうとする。</p> |



## 参考1 ライフコースとは

- 人間発達**は社会文化的、生物的、心理的力が継時的に相互作用する協力的プロセスである。社会構造がそのプロセスの構成要素となり、個人のライフコースを形成する際に大きな役割を演じる。**  
(齋藤・本田2001)
- ライフコース研究においては、からだの仕組み、発達過程と社会化、**人生の意味や目標とその獲得手段を決める社会文化的背景、そして、最後に歴史的背景やある時代の出来事や精神が、そのコーホートに属する個人の人生体験に影響を及ぼす様相に注目する必要がある。社会化のプロセスに着目すれば、ライフコースの発展と形成は社会的役割の連鎖であり、各段階での役割遂行が人生の満足度につながる。**  
(クローセン2000)



## 参考 社会的ネットワーク・ソーシャルキャピタル

子どもたちは、成長とともに、社会の多様な空間に足を踏み入れ、そこでの活動を通して、自身の将来像を設計し、そのための道筋を探る…ソーシャルキャピタルの重要性

学習の文化をはぐくむうえで、社会的ネットワークと規範の役割は、ライフサイクルの全体を通して重要

- ソーシャルキャピタル

社会的ネットワーク、そこから生じる互酬性、相互の目標を達成するためのそれらの価値からなるもの。その創出と再生は、持続的な「認知—承認」のプロセスつまり学習のプロセスでもある。

- 「フォーマル⇔ノンフォーマル⇔インフォーマル」の対立軸は意味をなさない。  
J・フィールド(2011)



## 参考3 異文化間能力

→ 日本語教育に携わる者にも求められる力

### <代表>

OECDのキー・コンピテンシー

#### 3つのカテゴリー

- ①相互作用的に道具を用いる
- ②異質な集団で交流する
- ③自立的に活動する

核心＝思慮深さ(反省性)

相手の立ち場に立つこと

- ・社会的成熟 ・異なる視点
- ・自主的な判断 ・自身の行への責任

異文化間能力の  
構成要素

- ① 知識
- ② 技能
- ③ 態度

認知的な側面に限定せず、上位面を含む広い概念

(Deardorff2015)

ライチェン・サルガニク(2006)



## 参考文献

- Deardorff, D.K. (2015) Definitions: Knowledge, Skills, Attitudes, In: M. Bennett (Ed.), *The Sage Handbook of Intercultural Competence*, Sage Publications.
- ドミニク・Sライテェン、ローラ・H・サルガニク編著・立田慶裕監訳 (2006) 『キー・コンピテンシー—国際標準の学力をめざして』明石書店
- J・フィールド著・矢野裕俊監訳 (2011) 『ソーシャルキャピタルと生涯学習』
- 金子書房、齋藤耕二・本田時雄 (2001) 『ライフコースの心理学』金子書房
- J.A. クローセン著、佐藤慶幸・小島茂翻訳 (2000) 『ライフコースの社会学 新装版』早稲田大学出版部、
- 齋藤ひろみ (2014) 「文化間移動をする子どもたちへの日本語教育—学びの連続性を保障する「内容重視の日本語教育」」『月刊国語教育研究』No.490, pp.16-21, 日本国語教育学会
- 齋藤ひろみ (2016) 「国内で日本語を学ぶ子どもたち—言語文化背景の多様性とライフコース」『児童心理』金子書房1035号, pp.11-18



## 第2分科会 論点

### 1 組織体の違いにより求められる専門性は異なるのか？

- 公教育（学校教育）で活動する場合との違いは？
- 公教育との関係性による違いもあるのか？
- 組織的な構造が強い場合と弱い場合では？

青少年自立センター⇔なか交際交流ラウンジ⇔地球っ子クラブ

### 2 組織内の役割によって求められる専門性はどう異なるのか？

- コーディネータ ⇔ 支援者・指導者 ⇔ アシスタント
- 子どもの母語ができるスタッフ ⇔ 日本語のみのスタッフ

### 3 活動参加者（支援者）の多様性を生かすための専門性とは？

言語教育の経験のみならず

社会的・職業的経験

当該地域における生活経験

言語・文化的背景

ソーシャルキャピタル